



# 障害者の ゆたかな未来をめざして



「お気に入りの音探し」 ワークセンターフレンズ星崎 生活介護現場  
※紹介が13ページにあります。

## CONTENTS

- ▶ 緑区でのグループホームを中心とした複合施設整備計画について … P2～3
- ▶ 猛暑・酷暑の中で職場での熱中症対策の取り組み …………… P6～7

2025年9月15日 毎月1回15日発行 一部200円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会  
〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3  
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358

ゆたか福祉会

検索



ゆたか福祉会HP



公式 Xアカウント



愛知県ファミリー・  
フレンドリー・マーク

# 緑区での グループホームを中心とした 複合施設整備計画について

緑区平手の土地を取得し、名古屋市に補助金申請をしていました「緑区でのグループホームと相談支援事業所、および福祉避難所を併設した複合施設整備計画」について、6月末に国の国庫補助金の内訳がありました。今後、入札などを経て9月には建設が始まることとなります。



## 1 複合施設を整備する 土地について

- ・名古屋市緑区平手北二丁目1104
- ・住宅地、かつ近隣に商業施設、教育機関等があり、利用者の地域生活や近隣住民との交流、また交通の便の良さ等で家族やの機会が保障される地域となります。

## 2 整備する建物の概要

- ・グループホーム  
定員 1階 5名  
2階 4名 2ユニット
- ・短期入所  
定員 2階 1名
- ・相談支援事業所 1階
- ・多目的室（福祉避難所） 2階

## 3 整備する事業の概要

### 新規事業所整備の理由

名古屋市緑区は名古屋市人口の10%を占めており、支給決定者数も中川区に次いで2番目に多い区

となっております。令和4年度の知的障害者、支給決定の内訳は共同生活援助、短期入所の支給決定数

親亡き後に備えたり、障害者支援施設からの地域移行を推進していきます。

が他区と比べて多いなど、地域のニーズとしてそれらのサービスの需要が高いことが分かります。

2024年1月に発生した能登半島地震からも、福祉避難所は地域に住む障害のある方、家族にとって非常時の生活を支える重要な社会資源ということを再認識させられたと考えます。今回、整備を予定しているグループホームには多目的室を整備し、大規模災害時には福祉避難所として活用できるようにしていきます。

緑区基幹相談支援センターや緑区自立支援協議会からは、強度行動障害を有する利用者の短期入所や生活の場が少ないこと、高齢障害者や車椅子利用などの重度身体障害者の入浴支援が出来る事業所が少ないことが、障害福祉の地域課題として挙げられています。

また、現在ゆたか希望の家敷地内にある相談支援事業所を交通アクセスのよい場所に移転することで、緑区基幹相談支援センターとの連携を強化し、緑区東部地域の相談窓口としての機能充実を図っていきます。

### 想定する利用者像と支援体制

1階 高齢・重度身体障害利用者向け  
グループホーム

に、法人所有の土地（緑区平手）に強度行動障害と重度・高齢化した利用者を受け入れるための専用設備を備えたグループホーム2ユニットを新規整備します。従来では障害者支援施設でしか受け入れの難しかった利用者の、地域での生活を支えていきたいと考えます。あわせて、短期入所と体験利用で

対象者は加齢や障害の重度化でADLが低下した利用者です。50代からの早期加齢、脳性麻痺等の

障害の重度化でADL低下のため、65歳未満でも知的障害支援に加えて、身体的な介護が必要な利用者者を想定しています。医療支援体制については、往診体制を構築し通院支援の負担を減らすとともに、高齢や重度身体障害者の急変に備えて24時間の往診対応が可能な医療機関との連携をしていきます。

**2階 強度行動障害者向けグループホーム**

地域の在宅利用者に加え、なるみ作業所の強度行動障害を有する利用者、ゆたか希望の家など入所施設で強度行動障害を有し、かつ地域移行の意向がある方を想定しています。強度行動障害支援者養成研修(実践)修了者が作成した行動支援シートを基に、強度行動障害支援者養成研修(基礎)修了者による専門的な支援を行います。

また、利用者の障害や介護に配慮した形で、個別対応が必要と判断した利用者には重点配置を行い、強度行動障害を有する利用者が安定して地域で生活できるように支援してまいります。

**建物構造・設備における工夫**

**1階 グループホーム**  
〔設備〕機械浴、大型洗濯乾燥機、3人乗りEV

\*今まで対応が難しかった高齢利用者や車椅子利用などの重度身体障害者に対応するため、座浴が出来る機械浴室や布団やシーツの洗濯に対応した大型洗濯乾燥機を設置します。

\*機械浴を使用しない利用者向けに両方向から支援が可能なシステムバスを設置して、利用者の身体状況に合わせた支援を提供することが可能です。

\*車椅子使用を想定して廊下の幅を1.7m〜1.8mに設定。居室も12㎡前後の広さを確保しています。

**2階 グループホーム**

\*強度行動障害者に対応するため、利用者の「気になるもの」を減らした生活空間となるように設計しています。ゆたか希望の家での実践を活かして壁、スイッチ類など破損に備えた備品を選定したり、水回りやトイレの位

置、壊れにくい壁や建具などを設定しています。また、防音対策を徹底して、強度行動障害を有する利用者が地域の中で生活できるように近隣への配慮をしています。

\*体験利用、短期入所の居室は廊下に扉を設置して、定住利用者が生活する空間と分けて慣れない利用者への配慮をするとともに、利用者個々のペースに合わせて集団生活が送れるように支援できるようにしています。

**その他の機能**

\*2階多目的室は会議室、福祉避難所として活用できるようにするとともに、強度行動障害を有する利用者が不調の際はカームダウンエリアとして活用できるようにします。

\*福祉避難所開設の際は、グループホームの浴室を活用することを想定して、多目的室からもアクセスが可能な構造としています。

**4 平手新規事業所整備に向けての緑区将来構想委員会での議論**

今回の新規事業計画に際し、ゆたか福祉会としてではなく「社会福祉法人としてどのような利用者を対象に支援するのか?」「地域から社会福祉法人に期待されている役割は何か?」を重点に議論してきました。

また、社会福祉法人が手がける事業所として、他法人では受け入れの難しい利用者を積極的に受け入れるため、「どのような利用者が困っているのか?」「そうした人たちを受け入れるには、どのような設備や体制が必要なのか?」についても議論を積み重ねてきました。

障害があるからではなく、障害があっても、強度行動障害があっても地域の中でその人らしく生きられる、それに必要な支援と設備の検証を今回の新規事業所で先駆的に取り組みます。あわせて新規事業だけでなく、既存の事業所の実践や設備改装、面的整備型の地域生活支援拠点のイメージに基づいた緑区や南区での事業所間連携と機能分化に活かしていきたいと考えています。

平手グループホーム建設委員会  
責任者 倉地 伸顕

# 7.15 & 7.18 / 新しい事業者に委託し、安全運転講習 開催

今回は 12 名の職員が 2 日間に分かれて実施しました。特徴は、路上講習に職員が同乗したことで、他職員の運転を見る中での気づきがあったことです。参加者の“声”と講師紹介を掲載します。

## みらいろ 望月 彩衣

私は免許を取得して 3 年目になります。運転することに慣れてきたなか、今回講習を受ける機会をいただきました。自分が思っていたよりも、車間距離を保つことや曲がるときのスピードは落とすことなどを学び、自分では意識していなかった癖も知ることができました。

週 1 回ほど、なかまと一緒に車を運転して納品に行く業務があります。「慣れ」の運転ではなく、定期的に自分の運転を振り返り、なかまの命と商品の安全を第一に考え、今後も運転業務を頑張っていきます。

## ふれあい共同作業所 唐澤 遼

免許を取得して十数年経ちますが、運転についてアドバイスを受けることは今回が初めてでした。自動車学校を卒業した頃はできていたはずが、いつの間にかの我流がしっかりと身に付いていました。座学では、理屈で考えれば納得する事柄なのに「できていない」「自分に意識がない」ことを痛感します。

自分自身、なかまの送迎に出る機会も多く、またドライブが好きなかまの多い現場です。ご指導いただいたことと、知識を使いながら運転業務に携わります。

## ケアサポート宝南 佐野 葵

今回の講習では、駐車場での技能講習、路上走行講習を行いました。普段に比べると、確認などを意識しながらの運転でした。停止位置や停止車両を考慮してのブレーキのタイミング、右左折の際のブレーキ調整のタイミング、曲がる際の内掛ハンドル等、自身の癖を改めて認識する大変貴重な機会となりました。

免許の更新時にいただく、安全運転の冊子も定期的に見るなど、日々の振り返りも行いながら、より安全運転に心掛けたいと思いました。

## ゆたか生活支援事業所なかがわ 仮屋 空澄

昨年の夏に免許を取得しました。自動車学校を卒業してから、人に自分の運転を見てもらう機会があまりなかったので良い機会になりました。例えば一時停止など、自分の中ではできているつもりでも、他者から見たらできていないことも多くあり、自分の運転を見直すことができました。

業務中に運転するときには、他の職員の方や仲間が同乗していることが多いので、今回の学びや気づきをもとに、より安全運転を意識していきたいと思いました。「慣れに惑わされず、初心を忘れず」

## 講師のご紹介

愛知ペーパードライバースクール岡崎校  
代表 滝 大介 氏

100 台以上の車両を保有されている貴会では、日々の業務においても高い安全意識と基本運転の徹底が求められています。講習では「確実な一時停止」「状況に応じた適切な速度」「正しいウインカーの時期」など、見落としやすい運転の基本を改めて確認いただきました。

基本ができているか、ぜひ一度ご自身の運転を振り返ってみてください。当スクールでは個人への出張運転講習も承っております。興味のある方は、是非ご受講ください。



<https://aichi-pds.com>

# 職員ハンドブックが 改訂されました!



## はじめに

職員ハンドブック改訂委員会 責任者  
なるみ作業所 須澤守

2023年度から「職員ハンドブック改訂委員会」として活動を始めて約2年。ようやく今回、改訂版として形にすることができました。

委員は、各分野の管理職の方々に関わって頂き、どの分野や事業、職場であっても、私たち職員に共通して大切にしたい価値観や考え、姿勢などを共有できるように、話し合いを重ねてきました。

この改訂版は、今回の「発刊」で終わりではありません。これからも職員の皆さんと一緒に考え、話し合いながら、より良いものへと育て

て頂きたいと思えます。

## 関わった委員の思い

リサイクル港作業所 副所長 河村聡

今回、法人全体の規律となるハンドブックの改訂に関わることができ、とても光栄に感じています。これからゆたか福祉会で働く方に対し、「少しでも安心して働いてもらいたい」という思いで改訂委員会に関わりました。

今後、ハンドブックに対する位置付けをそれぞれの事業所で統一し、是非活用してもらいたいと思います。

ゆたか生活支援事業所かさでら 副所長 片桐由麻

改定委員会に参加させていただいたことで、メンバーの皆様の意見をお聞きしていく中で、大変学びの多い時間となりました。

情報を伝えるうえで取捨選択の難しさや、「読み手にどう伝わるのか」そういったことを意識する大切さを強く感じました。この経験は、今後の業務にも活かしていきたいと思えます。

リサイクルみなみ作業所 所長 大野歌織

原稿作りは、障害福祉の分野に初めて関わる職員さんに分かりやすく、受け入れやすい内容と表現を意識して開始しました。色々な意見を

伺って「編集作業は難しい」と思いました。

編集委員会に参加して、当事者や関係者の運動から発展してきたゆたか福祉会が、戦争や裁判など現在の様々な情勢動向の中で、「大切に繋いでいくものは何か」と、考えさせられる事が多かったです。

グループホーム宝南の家 所長 松尾陽子

委員会では、障害分野・高齢分野に偏らず、どの現場でも使用できるハンドブックを目指せばと思っておりました。

委員会で検討し、様々な方からご意見を頂くことで、だんだんと良い物になっていく瞬間が「二つの物をつくる楽しさだな」と改めて感じました。改訂版を活用し、委員会の思いを職員につなげていけたらと思っています。

「パート職員のでびぎ」から始まった職員向けの冊子づくりは「実践のでびぎ」等、時々名称を変えながら現在の「職員ハンドブック」になりました。

第7期総合計画で掲げた「専門部会や委員会活動等への呼びかけを行い、事業所を越えて学ぶ機会」の具体化として、またパート職員や正規採用職員を対象とした研修講師として学び、気づく委員の姿は、これからの次代を担う管理者として心強さを感じるものでした。

研修部長 向幸子

# 猛暑・酷暑の中で 職場での熱中症対策の取り組み

年々、暑さが厳しく、湿度も高く、長期化する名古屋・東海地方の夏です。屋外で行う名古屋市委託事業のリサイクル事業もあり、以前から熱中症対策には力を注いできました。

しかし、「とにかく、今年の暑さは特別！」という声が聞こえています。様々に工夫して熱中症対策を行う各事業所の取り組みを紹介します。

## ▽ 日中活動事業所 ▲

### リサイクルみなみ作業所

作業現場は外気が入ってくるため、クーラーがあっても夏は暑いのです。このような環境下で体を動かすし、ペットボトルの分別作業を行うので、熱中症にならないように毎年注意喚起をしています。定期的な休憩や水分と塩分の摂取。エアコンのある休憩室や更衣室でのクールダウン。お昼にはお茶を沢山準備し、個人持ちの水筒へ追加しています。6月より熱中症対策について労働

安全衛生規則が改正され、報告体制や悪化防止の手順などを定めて労働者に周知することが義務付けられました。熱中症は初期症状の対応の遅れが重症化につながると学習し、熱中症の疑いがある人を発見した時の初期対応をまとめ、職員間で確認しました。冷却シートや経口補水液等も新しく備え直しました。

また塩分タブレットに加えて、今年には冷凍ゼリーの提供を行うようになりました。『仲間の学習会』では、実際に提供するゼリーを試食して、「冷凍してあるといい」とか、「小袋が開けにくい」等の意見を聞き取りました。暑い夏を無事に乗り切っていけるよう、更なる対策の工夫が求められています。

大野歌織

### リサイクル港作業所

空きびん・空き缶選別作業をする現場は体感温度40度を超えます。熱中症のリスクが高いため、夏時間導



利用者学習会の様子

入で作業開始を早め休憩を増やす、塩飴・スポーツ飲料水の提供、リフト職員に空調服着用等、対策を進めています。今年も、空調服に保冷剤を入れるベストを加え、水分提供の回数を増やしました。

6月からの熱中症対策義務化を受け、熱中症防止研修会に参加し、熱中症の怖さを学び、「熱中症応急対応マニュアル」を作成しました。

また、利用者学習会も行いました。「熱中症とは」「熱中症を防ぐための生活」「熱中症かも…」に気づくポイント」「熱中症になったら」「熱中症にならない作業の服装」「熱中症を

防ぐためのグッズ紹介」という内容です。「もしかして熱中症かも」という意識を持つことが目的でした。その後「頭が痛いけど熱中症かな？」と声が届きました。小さな発信が重症を防ぐ一歩に繋がると思います。「重症者を絶対に出さない」思いで対策を続け、厳しい夏を乗り切りたいと思います。

林田和子

### トライズ

トライズの回収現場では、毎朝8時からビン・缶の回収を行っています。それぞれ収集車両で1日100か所以上の地域を回る作業は、体力・気力も必要で、年々厳しくなる暑さを現場で強く感じています。

今年には特に夏の訪れが早く、熱中症対策をこれまで以上に強化しました。経口補水液の常備やスポーツドリンクの配布、冷感シャツの導入など、「まずは試してみる」スタイルで、いくつかの工夫を取り入れています。

「暑いものは暑い！」というのが正直な気持ちですが、事故なく安全に仕事を進めるため、皆で知恵を出

し合いながら取り組んでいます。これからも現場の声を大切にし、安心して働ける環境づくりを続けていきます。

佐藤 正章



### ▽ 高齢事業 ▲

#### グループホーム宝南の家

毎年夏場の入浴介助は、職員は汗だくで介助をしています。入浴介助は出勤の職員で声をかけながら行うこと、1人の職員に集中しないようにすること、入浴前と後に水分摂取をすること、体調が悪そうな職員がいたら声をかけあうことを徹底しながら、熱中症対策を行っています。

マスクの着用も任意にしました。表情が見えるようになって利用者さんも安心感が生まれているように感じます。また、自転車通勤や公共交通機関を利用して出勤する職員が多いので、出勤後の水分および塩分摂取の声かけも取り組んでいきたいと思っています。

松尾 陽子

### ▽ 地域支援 ▲

#### ゆたか生活支援事業所あつた

気候変動に伴い年々高温多湿化が進む中で、熱中症で緊急搬送されるケースを耳にすると、熱中症対策の重要性を感じます。熱中症を重篤化させない為の対策として、「身体を冷却し体温を下げる」と「塩分・水分を適度に補給すること」が挙げられます。

職場では、仲間の皆さんに夜間の水分補給や塩飴、帽子の着用・日傘の使用をお勧めしています。涼感マフラータオルやクールネックリングは馴染みが無い為なのか、事業所内では浸透しない点かもどかしいところ。暑さを表現する言葉も、馴染みのない猛暑・酷暑・激暑・炎暑といったものが出てきています。こ

れからも「地球温暖化防止の為に、私たちが出来ること」を、仲間と一緒に考えていきたいと思っています。

原田 恵子

### ▽ 相談支援事業 ▲

#### ゆたか相談支援事業所どうとく

相談支援の特徴的な活動は、訪問や書類提出等、外出です。「訪問先が遠い」「一度の外出で数か所を訪問する」場合は、主に公用車を活用しています。公用車が調達できないときや訪問先での駐車事情がある場合は、公共交通機関・自転車で移動しています。気候のよい時期は自転車での移動も問題ないのですが、最近はずから夏日があり、事業所内でも移動時の暑さ対策を講じています。

日々、気温と相談員同士の活動予定での移動手段を確認、公用車の相乗りや送迎体制を組んでいます。やむを得ず自転車で移動する場合は、移動時間に余裕を持って、事前に道中での「クーリングシエルト（指定暑熱避難施設）」や「避暑やすみスポット（協力薬局）」をチェックし、休憩をとるよう心がけています。

丸山 京子

### ▽ 居宅介護等事業 ▲

#### ライフサポートゆたか

利用の大半が外出支援のライフサポートゆたかでは、熱中症対応は必然です。基本以下の3つの取り組みを実施しています。

- 1 点目は、熱中症アラート発令時にはヘルパーに LINE WORKS を通じて注意喚起を行う
  - 2 点目は、首の部分を冷却する事ができるネックリングをヘルパー全員に配布。また、今年は適時、塩分補給が出来るよう携帯ゼリーや飴を配布。あわせて事務所にお茶を用意
  - 3 点目は、利用者含めての体調管理。こまめな水分補給の促しや、なるべく室内施設を利用するなどの工夫
- 近年は災害級の猛暑となっており、安全を第一に利用者にとつて楽しく、安心して外出を継続できるように、取り組んでいきたいと思っています。

今治 信一郎

# 暮らしの中に彩りを

7/2  
~7/3

水  
木

## ゆたか希望の家「一泊旅行」第1弾 ~富士山方面~

これまで、班ごとに旅行を企画していましたが、今年度は仲間の会総会で「高齢や車いす、食事形態が普通でなくても行きたい場所に旅行に行く」ことを目標としました。「富士山方面」「観光やな」「奈良方面」の3つの旅行先を発表し、その中から行きたい場所や体験したい内容を選んでいただきました。

安全な旅行とするため、食事形態やメニューをホテルと調整し、車いすのまま乗降できる観光バスを施設でチャーターしました。「富士山方面」の旅行には利用者15名、職員11名が参加しました。

1日目は「焼津おさかなセンター」で昼食。焼津市内のオーシャンビューのホテルで豪華な夕食を摂り、2日目は旬の幸が盛り込まれたお弁当を食べながら、清水港のランチクルーズで景色を楽しみました。普段の生活ではなかなか食べられないお刺身をはじめとした特産品や飲み物を楽しみ、観光バスに乗り、ホテルでの宿泊、お土産のお買い物など、初めて行く場所を経験してもらいました。旅行を通じ、皆さんはとてうれしそうな表情で過ごされていました。

普段の生活からできることや支援をイメージしながら、職員がバリアとならないよう考えていきたいと思っています。

荒川 知満



7/11  
~7/12

金  
土

## ゆたか生活支援事業所なるお「一泊旅行」 in 滋賀

第一八光荘のなかま4名と職員3名で行ってきました。2日間共とても暑く熱中症等の心配がありましたが、体調を崩す仲間もおらず、元気に過ごすことができました。

旅行中は、夕食の近江牛のすき焼きや、琵琶湖の景色を見ながらのバイキング、歌とダンスのショーに加えて、作業所へのお土産を「どれにしようか」と考えながら購入する仲間など、たくさんのイベントを楽しんでいる姿を見ることができました。

帰ってきてからも、旅行中に食べた食事を「おいしかった!」「また食べたい」と振り返る仲間もいて、とても良い思い出になったのではないかと感じました。

小川 花音



7/22

火

## ゆたか生活支援事業所みなみ 行ってきました!木下大サーカス鑑賞!

今年度最初の事業所内取り組みとして、木下大サーカスへの外出を行いました。なかま14名、職員9名、計23名の大人数での取り組みとなりました。

サーカスは馬や象のショーや空中ブランコなどの演目があり、大変な盛り上がりを見せていました。演者の掛け声に合わせて「がんばれー!」と声を出したり、元気よく手拍子をしたりとみなさん楽しんでいました。なかには、迫力あるショーに驚いて少し離れて見ている方もいらっしゃいました。「すごいな!あれで落ちないなんて!」「おもしろかったよ!」と笑顔で感想を話されていました。

今後の取り組みでも、みなさんの心に残るような計画を立てていけたらと思います。

野田 麻裕美



# 共同墓地が新たな運営でスタート！ 盆供養祭に10名が参加

## 「第1回共同墓地運営委員会」開催



7月8日(火)法人本部で「第1回共同墓地運営委員会」を開催しました。保護者連合会からは会長と副会長、法人からは理事長と業務執行理事、保護者連合会担当職員、オンラインでキラリンとーぷ所長が参加しました。

共同墓地は保護者連合会が建設し、管理運営してきましたが、この度法人の公益事業として移管することになりました。3月22日の理事会で承認され、この間諸規程(管理規程、利用規程、各種申請書、案内チラシ等)を検討し、8月理事会に諮ります。また今年の盆供養祭は、8月1日に大蔵寺にて執り行うことになり、参加者や担当を確認しました。

今後の法人本部と福祉村の分担は、相談受付から始まる生前申込や納骨式は本部で担当。共同墓地の管理清掃や納骨、盆供養祭での現地対応は、引き続き福祉村が担当します。2002年から続く共同墓地(なごみの塔)の永代供養を願う保護者の思いを、法人が引き継ぐこととなります。

リサイクル港作業所 萩原千秋

## 8・1 盆供養祭に10名参加

今年も盆供養祭の時期がきました。思い出すのは長い間一緒に参加した故藤田会長のお姿です。いつも稲武にある道の駅で休憩し、福祉村に住む利用者の方に手土産を買い求めていらっしやいました。

旅立たれた皆さんのお顔を思い浮かべながら、読経の中、静かに時が流れたひと時でした。

担当職員 向幸子

## 初めて参加して

私が大蔵寺さんを訪問したのは、20年位前の保護者連合会一泊研修会の時と、今回の参加になります。

この日も、とても暑い日でしたが、高台にある大蔵

寺さんは風が良く吹いて気持ちよい環境でした。住職が墓石の前でお経を読まれ、つづいて本堂に入り、厳かに読経と焼香を行いました。

「大蔵寺さんは、外観も仏壇も由緒あるお寺だ」と歴史を感じ、お掃除が行き届いた室内は「クーラーが無くても、こんなに涼しいのだ」と驚きました。いつまでも気持ちの良いこの空間に居たいと思ったくらいです。

今回参加者は10名で、ご家族の参加は2名でした。鈴木峯保さんの奥様には「偲ぶ会」以来、初めてお会いしましたが、お元気で「刈谷から一人で運転して来た」とお聞きして、びっくり。いつまでもお元気で過ごしていただきたいと思いました。又、いつもお供え物などを準備してくださるキラリンとーぷの所長さんや職員

さん、お世話になり有難うございました。

参加するにあたり、往復、女性4名の乗り合わせで行きましたが、とても遠い道のりが、車中は女子会さながらの楽しいおしゃべりで、アツという間の帰路でした。運転をしてくださった職員さん、どうもありがとうございました。

保護者連合会副会長 境田るり子



# 能登半島 被災地支援

広報誌における「能登半島被災地支援」の紹介は、2024年11月以来久しぶりになります。

この間、支援に参加した皆さんの“声”を紹介します。

## 第40クール（3月2日）

ゆたか生活支援事業所なるお 藤田 加奈

3月上旬、初めて被災地支援に入りました。2日目の半島一周の視察で、千枚田から海岸が隆起した海底の道、あちこちの隆起陥没した橋、豪雨災害で崩れたままの斜面すぐ横を実際に運転し、日常が一瞬にして奪われてしまうおそろしさを体感しながら言葉を書っていました。1年が経ち公費解体がすすんでいるとはいえ「誰一人取り残さない」支援が届いているとは思えず、輪島市役所の職員さんは防災服のまま、余震や原発への不安は現在進行形、見通しが立たない現実の中で日常を過ごされていました。『のとワイン』のブドウ畑で働いていることを嬉し

そうに話してくださいました。穴水町のSさん。作業所までの雪道を片道2時間かけて送迎支援したことは、七尾湾の美しさとともに印象に残っています。私にできることを日々探しながら、事業所においては備えること・想定することを大切に、自然豊かな能登に今後も心を寄せていきます。現在もつながり続ける40クルールのなかまは、職業人生においての財産となりました。また必ず能登に帰りたいと思っています。

## 第54クール（6月8日）

相談支援事業所ゆたか通勤寮 岩本 久美子

支援センターがある和倉温泉地域の視察から始まり、輪島市・珠洲市の視察、そして支援に入る事業所への挨拶回りなど、スタッフマネージャーに案内してもらいながら、メンバー全員で被災状況を見て回りました。

直接の支援活動としては、バス路線廃止にもない自力通院が難しくなった方の通院同行のお手伝いと、駐車場の草刈り、お店の商品の片づけでした。お店は2007年の地震時から片づけが進んでいないようで、かなり埃を被った物がたくさんあります。それらを2名のスタッフで家族（母）に確認を取りながら、息子さん（精神障害あり）と一緒に分別作業を行いました。再利用できるものは引き取ってもらい、それ以外の物はごみとして分別します。しかし、まとめて処分することができず、決められた場所の指定時間にしか出せないということでした。今回、初めての復興支援で、筆舌に尽くしがたい

地震の規模の大きさに言葉を失いました。しかし、そうした中でも能登の人達は優しく、前を向いて頑張ってみえました。この豊かな自然を引き継ぎ、安心して暮らし続けていけるように、支援をつないでいくことが大切だと思いました。

## 第55クール（6日15日）

地域生活支援拠点事業所まーぶる 手嶋 利浩

実際に被災地を訪れて、この目で隆起、陥没、建物の倒壊、土砂崩れを見て、「震度7クラスの地震の驚異と恐怖は計り知れない事なんだ」と痛感しました。自分自身が仕事中にこのクラスの地震に直面した時に、果たして仲間達を守る為に的確な声掛け、行動をとる事が出来るのであろうか？数ヶ月に渡ると思われる避難生活を送る時に的確な支援行動をとる事が出来るであろうか？能登で被災した職員の話で、「自分の身を守るのに必死だった」「被災日が仕事の休み中で良かった」「実際に仕事現場で被災したら、咄嗟に仲間達を守る行動ができたか？」と口にした言葉が本心なんだろうと感じました。

自分もニュースなどの報道を見て、被災地が大変な状況だとは思っている、どこか『対岸の火事』の心境でした。被災地ボランティアに行き、リアルな現状を見ることにより震災に対する考え方、見方が深まりました。自分のように実際に震災にあつた事のない職員には「ぜひ積極的に、被災地支援に参加してみてください」と声を大にして言いたいと思っています。

第59クール（7月13日）

理事長 後藤強

能登の支援活動に参加したのは7月中旬。被災地の今を肌で感じ、様々なことを感じた1週間でした。震災から1年半余りが経過し、建物や山肌・道路などの爪痕はそれなりに修復されつつありましたが、傾いた電柱や倒壊家屋の跡地に雑草が点在する風景は、なぜか原発事故で廃墟となった福島の大葉町を想起させるものがありました。

現地では聴覚障害の方の事業所への送迎や、仮設住宅にお住まいの方々の通院支援をさせて頂きました。片道1時間半かかる病院への車中、災害に襲われた日の恐怖や仮設住まいの不便さ、自分や家族の健康や将来への不安を、どの方も一様に語ってくださいました。

暮らしに生じた爪痕の修復は、道路や山肌の修復以上に難しく困難であることを実感。

私たちが行っている活動は、被災者の暮らしの修復に必要な支援の極々一部にすぎないこと。それでも、そうした小さな支援をつないで今の暮らしをなんとか成り立たせている方たちが現地にはまだ沢山いることを、忘れないでいたいと思います。

ゆたか作業所 吉田博

2024年1月1日に発生した能登半島地震。妻の実家が金沢にあり、この日は妻が正月帰省から帰ってくる日で、私事ながら関わりのあることでした。幸い実家に被害はなく、妻も時間差で無事帰っ

てくることができましたが、奥能登の被災状況を見聞きする度に胸が痛みました。そして、ようやく被災地支援に参加することができました。

私は職員不足が続く輪島市にある事業所支援と送迎支援や移動支援を中心に活動させていただきました。地震に加え、9月の豪雨被害の入り混じった爪痕がいまだに残る中での支援でした。改めて中山間地での支援の困難さは特別であり、「支援がないと安心して暮らすことのできない方たちが、如何にたくさんいるか」その実態を目の当たりにしました。

私は4日間のみの支援でしたが、JDFの支援はずっとつながっています。ただ、現状では来年3月末迄です。JDFの活動をどう地元を引き継いでいくのか等、課題は私が考えるだけでも山積みです。行政へのアプローチを含め、できることを一つでも多く拡げていきたいと思っています。

地域生活支援拠点事業所まーぶる 太田実里

今回初めて被災地支援に参加しました。能登半島地震から1年半、能登豪雨から1年経ち、復興は進んではいるものの当時と変わらない景色が残っているところも多々ありました。このような中で当たり前前の生活があり、様々な想いをもち生活されている方もいますが、「安心して生活するには、まだまだ程遠い」と感じました。

また現場支援に入らせていただき、視察だけでは知ることのできなかつた想いを直接聞くことができました。今でも震災前の生活とは全く異なる状況が続いていましたが、そのような中でも職員さん、利

用者さん共に復興に向けて、今、目の前の生活を懸命に過ごされている姿がありました。支援をする中で「来てくださってありがとうございます」と声を掛けてもらい、少しでも能登の皆さんの力になっていたら嬉しいです。

今回、被災地支援に参加し、たくさんの方の出会いがありました。現状や想いを実際に見て・知り、感じることができたことはとても良かったです。また、「今回の経験を今後の支援にも生かしていきたい」と思いました。



倒壊した石碑



1階が崩れ2階部分が酒樽に乗っている酒屋

ふれあい共同作業所

クックチルでの給食提供スタート！

〜安心・安全で楽しみや  
安らぎの中での食事の提供を〜



この間作業所では、5月31日〜6月27日の約一カ月をかけ、厨房の改修工事を行いました。目的は、現在の給食提供数に見合った厨房現場の環境整備と、クックチル方式での給食提供を行うことでした。

工事期間中は、各現場で出し弁当を召し上がっていたなど等、なかま、職員、保護者、関係者各位の多大なご理解とご協力をいただきました。

7月1日より無事、食堂での給食を再開でき、7月2日からはクックチルでの給食提供をスタートすることができました。

なかまの方々の反応としては、新たな座席や給食内容、下膳の方法などに対して見通しや調整の支援が必要な様子も見受けられています。「食堂が変わってちょっと寂しいけど、キッチンもお皿もきれいになってよかったね」「久しぶ



りにあったかいごはんを食べたいね」といった言葉もいただいています。今後も、率直ななかまの皆さんの想いを確認していくことに力を注ぎます。そして、より安心・安全な食事提供ができる環境・体制づくり、より楽しみや安らぎの気持ちの中で「食」に向き合うことができればと思います。

所長 大石雅生

入職して4ヵ月

〜同期が集合〜

2025年度入職者のうち、主に新社会人となった方を対象とした「懇談会」を7月25日(金)午後の半日で行いました。この「懇談会」は2023年度から始まった取り組みで、入職してから当日までの振り返りを「同期で語り合う場」として位置付けています。

当日は対象の8名全員が参加しました。新生活となり、分野によっては勤務形態が様々で、生活リズムを作る事から、仕事内容も多岐にわたる中、順応するまでの過程についてお聞きすることができました。各自が着実に取り組まれ、少しずつできる範囲が広がってきていることを実感している印象を受けました。

交流する中で、利用者支援に関する発言が最も多くありました。「知る」ことから始まって、「関係を構築」し、「一人一人に合わせた支援」の難しさを感じられています。先輩職員や利用者、また関係者からのサポートを受けながら、現在は対人援助やチーム支援の楽しさ、やりがいを見出されている様子でした。



これから取り組んでみたいことに関して、「利用者のことをもっと知っていきたい」「様々な経験を一緒にしたい」「楽しみや希望を理解して支援につなげたい」といった利用者支援に関することが中心でした。「新たな役割や仕事を理解し、できるようにしたい」などの働く意欲もお聞きすることができました。

全体を通して積極的な発言が多く、日々充実されている姿に刺激を受けました。これからも同じ法人の一員として共に成長していけたらと思います。

ライフサポートゆたか

早勢滋



### 「お気に入りの音探し♪」

ワークセンターフレンズ星崎  
生活介護現場

## 表紙の作者紹介

毎月1回行うアート活動で、「楽器作り」を行いました。音の出し方も叩く、振る、擦る、混ぜるなど様々。完成を目標にされる方や、作る過程や素材の感触を楽しまれる方など、活動時間の楽しみ方も多様です。

素材は、紙コップやお菓子の空き箱、空き缶などなど身近にある物。特にこの素材選びは今回の活動のポイントでした。最初は何から行こうか悩みますが、一つ手に取ってみると興味が広がります。

時間の大半をカプセルの色や大きさ選びにかけたり、音の大きさを一つずつ叩いて確かめながら決めたりと、好きな感触、好きな音探しから、新たな関心や発見の生まれる取り組みだったと感じます。

一般寄附(6・7月)

畠中 百合子  
新城 紘行  
伊藤 澄子

賛助会員新規加入者更新者(芳名一覧)

(7月1日～7月31日 手続き分)

桜軽金属工業(株)  
社会福祉法人あずま福祉会  
株式会社ユニオンサービス  
おおぞら作業所

高崎 すみ子 鏡味 千代子  
村井 智恵子 中山 葉子美  
野間 聖子 新城 紘行  
小田 切龍三 江坂 文恵  
山崎 恭裕 石元 恵明  
橋本 由美 伊藤 順子  
浅田 悦男 西野 直美  
佐藤 博宣 近藤 よし恵  
早川 剛史 及川 博子  
藤田 秋雄 千葉 恵子  
藤田 明美 山田 清文  
渡辺 正春 加藤 禎男  
小西 智江

順不同敬称略

### 広報・512号

2025年9月号(2025年9月15日発行)

定価1部200円

法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会

印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協力会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協力会費 = 年間1口6,000円、

賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884  
・あいち銀行 鳴海中央支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

※初めてお振込をいただく方は、お手数ですが法人本部(052-698-7356)へご連絡ください。



7月

- 8日(火) 保護者連合会定例会 / 共同墓地運営委員会
- 9日(水) 法人安全衛生委員会
- 14日(月) 事業運営推進会議
- 15日(火) 安全運転講習
- 16日(水) 新所長研修
- 18日(金) 安全運転講習 / 広報・ホームページ編集委員会 / 権利擁護・虐待防止会議
- 25日(金) 新規学卒者懇談会
- 28日(月) 研修部会議
- 29日(火) 援助担当者会議
- 30日(水) 副所長会議

# その人らしく働く暮らす

Vol.129

## 仲間

### 「仕事は最高やで」

リサイクルみなみ作業所 竹内涼馬さん



1992年生まれの竹内さんは、養護学校を卒業し2011年4月からリサイクル港作業所とリサイクルみなみ作業所を併用して働き始めました。1年半ほどして全面的にリサイクルみなみ作業所利用となつていきます。

「仕事は最高やで」と話すその表情には、自信と誇りがにじみます。「こじかない」と思える職場に出会い、体調に気をつけながら働く姿は、そばで見ている人の心を温かくしてくれます。

気候の良い季節には歩行器を使用し、40〜50分かけて歩いて通います。風を感じながら、一歩ずつ向かうその姿からは、前向きな生き方が伝わってきます。

仕事から家に帰ったら、甥っ子たちと遊び、食事とお風呂を済ませたあと、大好きな「龍が如く」や「ドラゴンボール」

のゲームでリラックス。夜9時半頃までの時間を楽しんでいます。

もう一つの楽しみはカラオケ。「歌い放題」のプランをお兄さんに契約してもらい、3か月に一回、3,000円を工賃から支払っています。

「長生きして、ずっと仕事に携わっていたい」その願いには、働くことへの強い思いが込められています。真面目すぎるほどの竹内さんですが、少しずつ心にゆとりを持ち、自分のペースで歩んでいただけたらと願っています。

梶村将史



日帰り旅行 ~掛川花鳥園~

## 職員

### 「たくさんの人に支えられながら」

ゆたか生活支援事業所みなみ 小林みのり



入職したきっかけは、学生時代のリサイクルみなみ作業所での実習でした。仲間の方々の生き生きと仕事に取り込む姿を見て、「自分もそんな仲間の方々の人生を支える一員になりたいら」という思いで入職を決めました。

入職してから約7年半。入職時から今まで変わらず、ゆたか生活支援事業所みなみ(グループホーム)にて働いています。事業所の再編などを経ながら、たくさん仲間やご家族、職員と出会い、「本当に温かく支えていただいた7年半だったな」と振り返ります。

今年度からは、副所長兼サービス管理責任者としての役割もいただきました。事業所運営に関わったり、個別支援計画の作成、日々の仲間の支援の調整などを中心となって行うようになりました。まだまだ未熟でうまくいかないことも多く、いろんな方のアドバイスやご意見をいただきながら、「どんな方法がいいのか」と

いつことを日々模索しています。

今後は、今までも大切にしながら、様々なことに挑戦していくということを大切にしていきたいと考えています。仲間の思いをくみ取り、ゆたかな生活の実現につながるよう、いろんな可能性を考えて実践していくこと。そして、自分自身も様々な挑戦をしながら経験を積み、知識や技術を身に付けて、支援の幅を広げていきたいと考えています。

これからも「人とのつながり」や「その人らしさ」を大切に、「自分にできることは何か」ということを考え続けていきたいと思っています。



「じゃん、けん、ほい!」